

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

ラテンアメリカ・カリブ地域 — 充実したオープンアクセス

佐々木茂子

●はじめに

学術情報のオープンアクセス化が世界に広まり始めた一九九〇年代後半、ラテンアメリカ・カリブ地域（以下、ラ米地域とする）ではコンピュータ台数やインターネットアクセスが増加し、情報基盤が整備されていった。一方で冊子体資料の出版部数が縮小し、高い郵送料が原因で資料の入手に支障をきたすなどの事情を抱えていた。ラ米地域の大学・研究機関・図書館および研究者にとって、誰もが無料でインターネットから学術情報を得ることのできるオープンアクセスはひとつの打開策であったと言える。

●オープンアクセスジャーナル

表1はDOAJに登録されたオープンアクセスジャーナルの国別タイトル数、登録開始年、全九四カ国三八一二誌中のランキングと、OpenDOARまたはROARに搭載されている機関リポジトリの数をまとめたものである。この表からラ米地域においてオープンアクセスジャーナルがかなり

浸透しており、米国に次ぐ登録誌数第二位のブラジルを筆頭にチリ、メキシコ、ペネズエラ、コロンビアも早い時期からオープンアクセスジャーナルに取り組んできたことが窺える。Haidarが二〇〇六年に世界の全体のオープンアクセスジャーナルの地理的分布を調査したところ、ラ米地域のオープンアクセスジャーナルの比率は世界でも抜きん出ているとの結果であった。

●オープンアクセスの多様な形態

J. Wilinsky は *Line em Revista* 誌上でラ米地域におけるオープンアクセスを一〇の形態に分類し具体例を挙げている。

その一部を紹介すると、今や多くの雑誌が投稿者にアーカイブやリポジトリへの掲載を許しているがここでは「電子出版物アーカイブ」の事例としてCLACSO (Consejo Latinoamericano de Ciencias Sociales) の電子図書館の名が挙げられている。次にラ米地域で最も一般的と思われるのが学協会や大学、政府機関などから「助成を受けたオープンアクセス」である。コスタリカの *Poblacion y Salud en Mesocósmo*

誌他多くの雑誌がこの形態である。さらに *Collegio de Mexico* が採っている「時差公開」は、オリジナルを出版後数カ月経過した後にコンテンツへのアクセスを提供するものである。また「インデクシング」の例では、UNAMのOAHermes が論文のメタデータにアクセスを提供している。「投稿者が料金を負担するオープンアクセス」の形態は医学分野でよく見受けられるが、ラ米地域ではあまり利用されていない。

この他に冊子体と電子ジャーナルの「二重方式」や「コンテンツの一部公開」などの事例があるが、これら全ての形態が存在するラ米地域はオープンアクセスの成熟度が高いと言えるのではないだろうか。

●ラ米地域から発信する学術情報

国際的な雑誌ポータルDOAJに登録されたオープンアクセスジャーナルの多くは英語で書かれているが、それは時にスペイン語・ポルトガル語を母国語とするユーザーにとって障壁となる。また、先進諸国が提供するオープンアクセスのコンテンツはラ米地域の現実や必要性を必ずしも反映

表1 ラ米地域におけるオープンアクセスの現状

| 国名 | オープンアクセス・ジャーナル | | | 機関 リポジトリ数 | 国名 | オープンアクセス・ジャーナル | | | 機関 リポジトリ数 |
|---------|----------------|-------|-------|--------------|-------------|----------------|-------|-------|--------------|
| | タイトル数 | 登録開始年 | ランキング | | | タイトル数 | 登録開始年 | ランキング | |
| ブラジル | 362 | 2002 | 2 | 72 | バハマ | 2 | 2008 | 74 | 0 |
| チリ | 95 | 2003 | 10 | 9 | ブリティッシュ・インド | 2 | 2006 | 75 | 0 |
| メキシコ | 76 | 2003 | 13 | 11 | ボリビア | 1 | 2008 | 81 | 1 |
| ペルー | 72 | 2003 | 15 | 10 | ドミニカ共和国 | 1 | 2008 | 82 | 0 |
| コロンビア | 65 | 2003 | 17 | 9 | ウルグアイ | 1 | 2008 | 89 | 1 |
| アルゼンチン | 55 | 2004 | 19 | 6 | ニカラグア | 1 | 2008 | 90 | 1 |
| キューバ | 22 | 2004 | 29 | 1 | パナマ | 1 | 2005 | 91 | 0 |
| ベネズエラ | 17 | 2005 | 36 | 10 | ジャマイカ | 0 | — | — | 1 |
| コスタリカ | 15 | 2004 | 37 | 4 | パラグアイ | 0 | — | — | 1 |
| エルサルバドル | 7 | 2005 | 56 | 0 | 合計 | 799 | — | — | 140 |
| グアテマラ | 2 | 2006 | 70 | 0 | | | | | |
| エクアドル | 2 | 2005 | 71 | 3 | | | | | |

(出所) DOAJ, OpenDOAR, ROAR (2008年12月末アクセス結果)。

していない場合がある。以下にラ米地域の研究者による、あるいはラ米地域で必要度の高いテーマの学術情報を発信する取り組みをいくつか紹介したい。

まず最初に作られた大規模なポータル Lindex (四〇ページ参照) は一九九七年からラ米地域の学術雑誌のメタデータを提供するものである。また、同じ年にスタートしたブラジルの SciELO (四三ページ参照) は現在ラ米地域とスペイン・ポルトガルに拠点を拡大しており、このプロジェクトによってスペイン語・ポルトガル語圏で発行された電子ジャーナルへのオープンアクセスが実現した。そして二〇〇二年にスタートした RedALyC (四〇ページ参照) は規模においても内容においても SciELO と肩を並べるものに成長を遂げた。

OpenDOAR または ROAR に搭載されているリポジトリ数は、ラ米地域全体では一四〇、ブラジルが七二、続いてメキシコが一、ベネズエラとペルーが一〇、チリとコロンビアが九である。他の開発途上諸国に比べてオープンアクセスが発達しているラ米地域であるが、機関リポジトリに関してはブラジルを除けばまだ十分とは言えない。

●社会科学分野には CLACSO と LANIC

ラ米地域に関する社会科学分野の学術情報と灰色文献を入手するサイトとして、C

LACSO と米国テキサス大学の LANIC (Latin American Network Information Center) をおすすめしたい。

CLACSO は一九六七年に設立された国際的な非政府組織である。現在、ラ米地域二一カ国から一六八の社会科学研究機関が集まり学術ネットワークを形成している。一九九八年から開始したラテンアメリカ・カリブ地域電子図書館ネットワークではメンバー機関が雑誌論文、図書、ワーキングペーパー、会議資料等を選択してオープンアクセスに提供している。筆者が二〇〇一年一月に訪問した際、「ウェブ上で全文にアクセスできるのになぜ本を欲しているか？」と質問されたのが印象に残っている。

次に紹介する LAOAD (Latin American Open Archives Portal) は LANIC と LARRP (Latin American Research Resources Project) の共同プロジェクトであり、ラ米地域で出版された社会科学分野の灰色文献へのアクセスを提供するポータルである。コンテンツの特色はワーキングペーパー、プレプリント、リサーチャーペーパー、統計ドキュメント等商業ベースでは入手が困難な資料である。

LANIC はこの他にもラ米地域政府資料アーカイブなどへのアクセスも提供しており、ラテンアメリカ研究者にとって非常に便利な情報ポータルサイトである。

●おわりに

ラ米地域はスペイン語・ポルトガル語を共有する多くのユーザーを抱えておりオープンアクセスに対する需要は高く、その効果は計り知れない。今後ますます地域独自の情報発信が拡充することを期待したい。

(つづき) しげこ／アジア経済研究所 図書館)

関連URL

- Red de Bibliotecas Virtuales de Ciencias Sociales de América Latina y el Caribe (<http://www.biblioteca.clacso.edu.ar/>)
- LAOAD: (<http://lanic.utexas.edu/project/laop/>)
- LANIC (<http://lanic.utexas.edu/>)

《参考文献》

- ① Juan Pablo Alperin, Gustavo Fischman, John Willinsky, "Open Access and Scholarly Publishing in Latin America," *Linea em Revista*, v.4, n.2, setembro 2008.
- ② 竹内比呂也「発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス」(『カレントアウェアネス』通号二八三号、二〇〇五年)。